

「第7回定時総会および第32回理事会」開催される

～新会長に三菱重工業(株) 取締役会長 大宮英明氏を選任～

(一社)日本航空宇宙工業会は、5月31日(木) ANAインターコンチネンタルホテル東京において、第7回定時総会および第32回理事会を開催した。

同日のスケジュールは以下の通り。

午後4時00分~4時30分	会長記者会見(一般紙/専門紙)
午後4時40分~5時30分	第7回定時総会
午後5時40分~5時50分	第32回理事会
午後6時00分~7時30分	懇親パーティー

1. 第7回定時総会

第7回定時総会には正会員85社中の58社の出席を得た。(他、委任状24社)

総会は、吉永会長の挨拶(次業)後、同会長により議事進行がとり進められ、全議案が滞りなく承認可決された。

第7回定時総会の議事内容は次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 第1号議案 平成29年度決算の承認について
- 第2号議案 平成30年度会費の承認について
- 第3号議案 任期満了に伴う理事の選任について
- 第4号議案 任期満了に伴う監事の選任について

最後に吉永会長より退任の挨拶があり、拍手をもって閉会となった。



吉永 泰之 会長
(株)SUBARU
代表取締役社長



定時総会会場

吉永会長所見（第7回定時総会）

一般社団法人日本航空宇宙工業会第7回定時総会に際し、会長としてご挨拶をさせていただきます。

我が国の航空機生産額は、リーマンショックによる落ち込みから緩やかに回復し、近年大きく成長してきました。平成28年度は、民間航空機分野において新事業との端境期に差しかかったことから前年度に対して減少したものの1.7兆円規模を堅持しており、宇宙分野の生産実績3,270億円と合わせた我が国の航空宇宙生産額は、前年度に引き続き2兆円超を達成しました。そして平成29年度も堅調に推移し、我が国の航空宇宙産業は3年続けて2兆円規模に達するという期待通りの年であったと考えます。

民間航空機分野では、先ずMRJが2020年に予定されている初号機納入に向けて、米国ワシントン州モーゼスレイクでの飛行試験をはじめとした開発作業が国内および米国で鋭意進められております。また、昨年6月のパリエアショーにMRJが初めて実機展示され、大変に注目されたことは未だ記憶に新しいところです。そして今年7月のファンボローエアショーでは飛行展示が計画されていると聞いており、大いに期待しています。YS-11以来半世紀ぶりの国産旅客機MRJが商業運航される日を楽しみにしています。

同じく民間機の完成機事業として、ホンダジェットが昨年43機を納入し、ビジネスジェット超小型機クラスとしての機種別販売が世界一であったとの報道を嬉しく思います。引き続き、我が国企業の完成機事業がますます発展することを期待いたします。

国際共同開発事業としては、ボーイング社が開発を進めている777Xプログラムにおいても胴体コンポーネントや中央翼など主要構造部の約21%に日本の航空機メーカーが参画いたしており、新型機の開発が円滑に進むよう努めてまいります。また、エアバス機にもA350、A380などに多くの日本企業が参画しております。

日本のメーカーが将来事業においても継続的に重要な部位を担当し、我が国の航空機産業の発展に寄与することを期待いたします。

新型航空機の開発および生産に伴い民間航空エンジン分野においても需要の伸びが期待されております。日本のエンジンメーカーが参画しているエアバスA320neo用エンジンであるPW1100G-JMの生産が本格化しているとともに、ボーイング777Xについても、ゼネラル・エレクトリック社が開発を進めているGE9Xへの参画も決まっております。こうした新規事業への継続的な参画によりわが国のエンジン分野が今後も発展することを期待いたします。

グローバルな安全保障環境は緊迫した状態が継続していることから、工業会としては国の安全保障政策にそって、防衛航空機分野において産業界に期待される役割をしっかりと担うべく努めてまいります。

主な防衛事業として、昨年6月に航空自衛隊の次期戦闘機F-35A国内生産初号機が初公開され、今年1月に部隊配備されました。当該事業は1～4号機までの完成機輸入に続き、国内企業が製造に参画する形態で事業化されています。また、F-35のアジア太平洋地域における整備拠点（リージョナル・デポ）を日本に設置するという米国政府の方針は、MROU（Maintenance, Repair, Overhaul & Upgrade）事業を含めた、更なる国内基盤の強化につながるものと期待いたします。

また、MV-22定期機体整備事業についても、日米共通整備基盤の確立にむけた新たな取組みとして、今後とも注視していきたく思います。

他方、将来戦闘機に関しては、X-2先進技術実証機の成果が将来戦闘機の検討に活かされることが期待されます。工業会は昨年9月に「将来戦闘機国内開発の早期立ち上げに関する要望書」を防衛省に提出いたしました。防衛省において「防衛大綱の見直し」や「次期中期防衛力整備計画の検討」が行われていることを踏まえ、産業界として将来戦闘機の我が国主導の開発と早期着手を要望いたしました。国産戦闘機実現に向け、機体構造、エンジン・アビオニクスなどの必要な要素技術は、防衛省や各省庁の協力のもと各企業が取組み、着実に蓄積されて具体的成果が見えつつあると認識しております。

戦闘機以外の分野では、昨年3月にC-2新型輸送機の部隊配備が開始されました。P-1固定翼哨戒機は長期契約による一括調達が採用されており計画的な量産事業が進められています。

また、US-2救難飛行艇の海外輸出についても検討されており、そして、陸上自衛隊新多用途ヘリコプターの開発は、年内の試験機の初飛行に向け、国内開発作業と併行して海外においてベース民間機の開発と各種試験が順調に進んでいます。これらの事業が、防衛航空機の基盤維持に資することを期待いたします。

宇宙分野では、先ず、昨年12月から金井宣茂宇宙飛行士が約6ヶ月間の予定で国際宇宙ステーション（ISS）での長期滞在任務に就いておられます。日本人宇宙飛行士が活躍していることを誇らしく思います。このISSの運用は2024年まで延長する方針が示されており、科学技術および宇宙産業の発展に寄与するものと期待いたします。

ロケット打上げ分野では、今年2月にH-IIAロケット38号機の打上げが成功しました。「こうのとり」を搭載するH-IIBロケットの全6回打上げ成功と合わせると38回連続の成

功であり、97.8%の高い成功率を誇っております。

固体ロケットでは、1月のイプシロン・ロケット3号機の打上げ成功に引き続き、2月には超小型固体ロケットSS-520ロケットの打上げに成功しました。今後も打上げにおける高い信頼性をもって、わが国の商業用衛星打ち上げ・輸送サービスが国際市場において受注を拡大していくことを期待いたします。

衛星分野では、既に引き渡し完了したトルコ国営通信会社の通信衛星に引き続き、カタールからも通信衛星を受注しており、今年打上げが計画されております。

一方、国内の衛星需要としても、宇宙基本計画にそって、準天頂衛星の7機体制への移行に向けて、昨年、準天頂衛星「みちびき」2～4号機の打上げに成功しており、今後、準天頂衛星の利用拡大が一層進められることを期待しています。

また、今年3月に東京で開催された第2回国際宇宙探査フォーラム（ISEF2）をうけて、今後の我が国の国際宇宙探査の具体化に向けた検討が加速されることを願っています。日本のメーカーは高い技術力、品質と競争力のある価格をもって国内外の宇宙事業への参画と貢献に努めています。

宇宙産業への民間事業者の参入を促すため、いわゆる「宇宙活動法」と「衛星リモートセンシング法」による環境整備が進んでおります。また、昨年5月に「宇宙産業ビジョン2030」が公表されました。このビジョンには、宇宙利用産業を含めた宇宙産業全体の売上を2030年代の早期に、現在の2倍となる2.4兆円を目指すことと示されており、この実現に向けて努力することが必要です。

さらに、「宇宙システム海外展開タスクフォース」の活動を通じて海外における商業宇宙市場を官民一体となって開拓することにより、わが国宇宙産業の活性化を図っていくことが重要であると考えます。

今年の11月28日～30日には「国際航空宇宙展 2018 東京」(JA2018 Tokyo)を東京ビッグサイトと共催で開催いたします。今回はビジネスに特化した展示会です。わが国航空宇宙産業の情報を発信するとともに、世界的なビジネスを展開する場となるよう準備を進めています。

以上のように、航空宇宙産業は幅広く技術革新を進め、経済を活性化する先端技術産業であり、安全保障にも直結している重要な産業であります。これらの使命を肝に銘じ、航空宇宙産業の更なる発展に努めてまいります。

皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます、会長としての挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

2. 第32回理事会

総会後に開催された理事会において、任期満了に伴う新たな会長・副会長ならびに専務理事・常務理事を選任した。(理事13社中、出席13社)

新会長には、三菱重工業(株)取締役会長 大宮英明氏が選任された。新副会長には、川崎重工業(株)常務執行役員 並木祐之氏、ナブテスコ(株)代表取締役社長 寺本克弘氏および東レ株式会社常務取締役 須賀康雄氏の3氏が選任された。また専務理事として今清水浩介、常務理事として高辻成次と山北和之が選任された。

第32回理事会の議題は、次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 議案1 任期満了に伴う会長の選任について
- 議案2 任期満了に伴う副会長の選任について
- 議案3 任期満了に伴う専務理事・常務理事の選任について

当工業会の会長・副会長ならびに理事・監事は次の通り。

(1) 会長・副会長



会長 大宮 英明
三菱重工業(株) 取締役会長



副会長 並木 祐之
川崎重工業(株)
常務執行役員
航空宇宙システムカンパニー
プレジデント



副会長 寺本 克弘
ナブテスコ(株)
代表取締役社長



副会長 須賀 康雄
東レ(株)
常務取締役
複合材料事業本部長

(2) 理事・監事（会長・副会長を除く）

当会役員名	氏名	会社名	役職
理事（非常勤）	識名 朝春	株式会社 IHI	取締役 兼 常務執行役員 航空・宇宙・防衛事業領域長
〃（〃）	戸塚正一郎	株式会社 SUBARU	常務執行役員 航空宇宙カンパニー プレジデント
〃（〃）	藤野 寛	株式会社 島津製作所	取締役 専務執行役員 航空機器事業部長
〃（〃）	濱田 克彦	住友精密工業株式会社	専務執行役員
〃（〃）	高田 和宏	日本電気株式会社	執行役員常務
〃（〃）	岡村 将光	三菱電機株式会社	常務執行役
理事（常勤） 専務理事	今清水浩介	元・独立行政法人 情報処理機構理事	
理事（常勤） 常務理事	高辻 成次	元・航空自衛隊第2術科学学校長	
〃	山北 和之	元・防衛省艦艇装備研究所長	
監事	牧野 隆	株式会社 IHIエアロスペース	代表取締役社長
〃	巽 重文	一般財団法人 日本航空機開発協会	技術顧問

3. 定例会長記者会見

（一社）日本航空宇宙工業会は第7回定時総会に先立ち、一般紙・専門紙への定例記者会見を開催した。吉永会長、大宮新会長の挨拶（後掲）の後、活発な質疑が行われた。

[時間：16:00~16:30、於「ギャラクシーⅢ」]

(1) 出席者

新聞社・報道機関：朝日新聞社、日刊工業新聞社、ウイング、軍事研究、Jウイング、航空情報、航空ファン、航空ニュース、航空関係ジャーナリスト（8社+ジャーナリスト、12名）

当工業会出席者：吉永会長、大宮新会長

[事務局] 今清水専務理事、高辻常務理事、山北常務理事、他関係者

(2) 配布資料 第7回定時総会吉永会長所見、平成29年度航空機生産額（速報値）、平成29年度宇宙機器産業の売上高見込み



吉永会長



大宮新会長



記者会見会場

4. 懇親パーティー

(一社)日本航空宇宙工業会は、第7回定時総会終了後、恒例の懇親パーティーを開催した。当日は、関係官庁、国会議員、学識者、在日外国企業、報道関係者並びに会員企業等、幅広い方面から約680名の方々にご参集をいただいた。

パーティーは冒頭、吉永会長の退任挨拶および大宮新会長の就任挨拶に引き続き、ご来賓の方々(下記)よりご祝辞をいただいた。その後、並木新副会長による乾杯の音頭によって、和やかに懇談に入った。

ご 来 賓



松山 政司
内閣府特命担当大臣



武藤 容治
経済産業副大臣



山本 ともひろ
防衛副大臣



水落 敏栄
文部科学副大臣



大宮新会長・武藤経済産業副大臣



大宮新会長・山本防衛副大臣



大宮新会長・吉永前会長

吉永前会長 懇親パーティー挨拶

一般社団法人日本航空宇宙工業会前会長の吉永でございます。本日は、ご多用中にもかかわらず、国会議員の皆さま、関係官庁幹部の方々をはじめ関係各位多数のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。さて、私は一昨年5月に当工業会の会長に就任し、本日の総会をもちまして任期を終えることになりました。任期中のご支援への感謝を含めまして、一言ご挨拶申し上げます。

1. 振り返りますと、我が国の航空宇宙産業にとって素晴らしい2年間であったと思います。わが国の航空機生産額は、平成23年度に1兆円を超えた以降急速に成長し、平成29年度は1.6兆円に達しました。宇宙分野と合わせて、2兆円産業になったことを、会員の皆様とともに慶びを分かち合いたいと思います。

2. 規模の拡大と併せて、防衛・民間・宇宙の各分野で様々な事業が大きく前進いたしました。民間航空機分野では、ボーイング777X初飛行に向けた開発、PW1100G-JMエンジンの量産開始など、国際共同開発における日本のポジションは順調に高まってきました。また、MRJは7月のファンボローエアショーで初の飛行展示を行うことになりました。ホンダジェットと併せて、我が国の完成機ビジネスの発展に期待が膨らむ明るいニュースです。
3. 防衛関連分野では、防衛省における「防衛大綱の見直し」と「次期中期防整備計画の検討」に合わせ、当会は昨年9月に「将来戦闘機国内開発の早期立ち上げに関する要望書」を防衛省に提出しました。また新多用途ヘリコプターや将来戦闘機用エンジンの開発も順調に進んでいます。当工業会は、国の安全保障政策へ協力するため、引き続き、防衛省や経済産業省をはじめとする関係当局と連携しつつ、国際的な防衛産業間対話などを進めることにより、最新技術の獲得や防衛生産・技術基盤の維持・強化に努めてまいりたいと考えております。
4. 宇宙分野では、昨年度、過去最大規模の7機のロケット打上げに成功しました。昨年10月の準天頂衛星4号機の打上げにより、H-IIA・H-IIBロケットは連続30回の成功となり、成功率は97.6% (=41/42) に達しました。とりわけ、準天頂衛星システムは4機体制が完成し、日本独自の高精度測位技術による新たなサービスの提供が始まることとなりました。当工業会は、引き続き、新たな「宇宙基本計画」に示された具体的な目標の達成に協力するとともに、積極的な国際市場への参入に努めてまいります。
5. この2年間は日本の航空宇宙産業が新たな飛躍に向けて成果を積み重ねてきた期間でした。この重要な時期に、JA2016を成功裡に終えることができ、会長としての任を果たすことができましたのは、ひとえに会員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、あらためて心より感謝申し上げます。
6. 後任の会長は、三菱重工業の大宮さんにお引き受け願うことになりました。大宮さんは皆様ご承知のとおり航空宇宙産業界の代表として誠に適任の方であります。今後とも、わが国航空宇宙産業が、新会長のリーダーシップのもと、従前にも増して大きく発展することを祈念いたしまして、私の退任のご挨拶とさせていただきます。

長い間どうもありがとうございました。

以上

大宮新会長 懇親パーティー挨拶

先ほど開催されました理事会におきまして、一般社団法人日本航空宇宙工業会会長に選任された大宮でございます。伝統ある工業会の会長職は重責ではありますが、皆様のご支援を得ながら、任務を果たして参りたいと思っております。よろしく申し上げます。

ただ今、吉永前会長からご挨拶がありました。前会長におかれましては、これまで業界の発展に多大なる貢献をされてこられたことに、深く敬意を表する次第であります。

さて、私ども航空宇宙産業は先端技術産業として技術立国であるわが国の技術をリードするとともに、安全保障にも直結する重要な産業であります。世界各国は、航空宇宙産業を戦略産業の一つと位置づけ、積極的な取り組みを進めておりますが、新興諸国の台頭も目覚ましく内外の市場では厳しい競争が展開されております。こうした環境の中で我が国航空宇宙産業の一層の発展のために、私は次のような方向で民間・防衛・宇宙の各分野に跨る工業会活動をより強化していきたいと考えております。

先ず、民間分野では、今後もボーイング社やエアバス社等との国際共同開発の促進を通じて、主要な開発パートナーとしての地位を質・量ともに向上・拡大させていくと同時に、当工業会を構成する「機体システム・装備品・電気・素材等に跨った全日本及び完成機レベルの航空機産業プラットフォームの構築」を通じて、我が国経営資源の有効活用促進や産業基盤の維持強化に努めて参ります。

一方、日本の航空機産業は防衛分野と民間分野がシナジーを発揮し互いに発展してきました。防衛分野で蓄積された先端技術が1980年代以降各社において民間分野を技術的に牽引してきました。そして現在民間分野においては世界的に競争力のある生産体制が確立されています。この生産体制を防衛分野で活用するとともに将来の民間分野をも牽引していく新しい技術を生み出す防衛事業、例えば将来戦闘機の我が国主導の開発等が重要となります。従って防衛と民間両分野に跨る我が国航空機産業の更なる発展の為にも、我々産業界側と防衛省や経済産業省をはじめとする関係当局との連携強化に努めて参ります。

宇宙分野では政府の「宇宙ビジョン2030」において、宇宙利用産業も含めた宇宙産業全体の市場規模（現在1.2兆円）の2030年代早期の倍増を目指すことと示されています。国の計画する研究開発等を基盤とし海外市場における打上サービスや衛星の受注拡大に加え、利用産業の創出と拡大に注力致します。

また今年11月にはビジネスに特化した展示会「JA2018 TOKYO」を東京ビッグサイトと共催する運びとなりました。これは経済産業省、防衛省、地元自治体・経済団体及び全国の中小企業と連携し、新たなビジネスチャンス創出を図るものであり、その成功に向け、準備に万全を期して参ります。

以上、当工業会は、我が国の航空宇宙産業の更なる発展に向け、諸事業を推進してまいります。皆様方におかれましては、一層のご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

以上